

令和元年度 教育部 施策展開方針 報告書

1. まちづくり政策(教育部関係分)

政策 06 子育て・教育	政策展開の方向性						
	<p>子育て環境を充実させることにより、安心して子どもを産み育てられ、就業と子育ての両立もできるまちをつくります。教育では、子どもたちが多様で変化の激しい社会を生き抜いていく力を養成することに主眼をおき、個性を尊重しつつ確かな学力の定着に努めます。安全で安心な教育環境の下で地域社会全体が連携し、次代を担う心身ともに健康な子どもたちを育てます。</p>						
	令和元年度の取組状況報告						
	06-02 子どもの教育の充実						
	<ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力の定着のため、引き続き全小中学校への学習サポート教員の派遣や小学校全学年で外国語教育に取り組んだほか、小学校の教育用パソコンをデスクトップ型からタブレット型に更新するなど、ICT教育環境の充実に取り組みました。また、障がいのある子どもに対する環境整備として、身の辺りの介助や学習支援等の補助を行う特別支援教育支援員を学校に配置したほか、施設改修を実施しました。 ・医療的ケアを必要とする児童生徒が、安全に通学できるよう学校に看護師を配置し、医療的ケア児の就学に向けた支援を行いました。 ・道徳の教科化など新学習指導要領への移行に向けた指導体制の強化のため、指導主事を1名増員配置しました。 ・心身ともに健康な子どもたちの育成のため、大学との連携による体力向上プログラムや出前授業、走り方教室の実施など学校での体力向上の支援に取り組みました。 ・学校における読書活動の充実については、学校図書館の蔵書率向上に取り組むとともに、学校司書の巡回配置に加え、短期間の集中的な支援によって環境整備を進めたほか、児童生徒の朝読書や調べ学習などの教育活動の支援に取り組みました。 ・開かれた学校づくりに向けて、学校、家庭、地域の連携・協力を推進するため、学校支援地域本部事業の取組として、引き続き学校支援ボランティアの全市的な派遣を実施したほか、全小中学校に導入している「えべつ型コミュニティ・スクール」により、家庭や地域の積極的な教育活動への参画を促しました。 ・安全で安心な教育環境を確保し、学校施設設備の整備・充実を図るため、大麻東中学校の屋外避難階段建替工事を実施したほか、老朽化した施設設備の更新等を計画的に実施しました。 ・様々な悩みや課題を抱える子どもや保護者への支援の充実を図るため、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー等による相談業務及び不登校児童生徒を対象とした「すぽっとケア事業」を引き続き実施しました。 ・ネットトラブルや健康被害から子どもたちを守ることを目的に、スマホ・ネット等の利用に関するルール「えべつスマート4RULES」の普及啓発のためのクリアファイルを児童生徒へ配布したほか、市内全中学校及び一部の小学校で外部講師による情報モラル講演会を開催しました。 ・地域社会が連携して青少年の健全育成に取り組む活動を推進するため、体験活動やボランティア活動等の機会を充実させたほか、育成団体等の連携強化に取り組みました。 						
	政策の成果指標	単位	(初期値)	H29年度	H30年度	R元年度	目標
	子育て環境が充実していると思う保護者の割合	%	44.6	45.6	50.0	47.9	↗
	教育施策に満足している保護者の割合	%	78.0	90.6	88.5	84.1	↗
	「生きる力」が身についた児童・生徒の割合	%	81.7	81.5	83.5	81.9	↗
	教育部が所管する個別計画または重点事業の進捗状況						
	「学校教育基本計画」 授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいた児童生徒の割合	%	76.2	74.0	76.6	75.3	↗

政策展開の方向性

市民が生涯にわたって、学習・文化活動・スポーツを気軽に行える場を提供し、市民が心身ともに健やかで充実した生活を営めるようにします。また、長い歴史を持つれんが産業や文化・歴史遺産を通じて、市民のふるさと意識の醸成を図ります。

令和元年度の取組状況報告

07-01 生涯学習の充実

- ・社会教育施設が市民の交流や学習活動の拠点として活発に利用されるために必要な環境整備として、修繕計画に基づき、令和元年度は、野幌公民館管理用カメラ設備更新や情報図書館中央監視装置更新等を実施しました。
- ・生涯学習事業を実施する各活動団体が自立し、主体的に活動を展開していけるよう、社会教育団体への公民館施設等使用料の減免など、活動団体の安定的な運営への支援を実施しました。
- ・市民が生涯学習で習得した知識や技術が地域社会に還元されることが望ましく、市民が社会参画に向けて多様な知識を得るための機会や情報を提供するため、PRを工夫しながら、市内4大学等と連携した「えべつ市民カレッジ」を開催し、学長奨励賞を新設するなど、参加意欲を向上させる取組を実施しました。

07-02 ふるさと意識の醸成と地域文化の創造

- ・市民に質の高い文化・芸術を鑑賞する機会や幅広い活動の場を提供するため、プロの公演や市民ミュージカル本公演、まちかどコンサートの開催、文化活動団体の安定的な運営に対し支援しました。
- ・市民に優れた芸術作品を鑑賞する機会や創作活動を発表する場として、企画展示会や市民参加型の展示会を実施したほか、地域文化のひとつである「陶芸文化」を普及振興するため各種講座を開講しました。
- ・文化財や歴史遺産を調査・保存し、後の世代に正しく継承していくため、体験型事業等を通じて市民のふるさと学習を支援するとともに、展示施設の利活用の充実や、文化財の保全に努めました。

07-03 市民スポーツ活動の充実

- ・安全で快適なスポーツ施設は、充実した活動のために不可欠なものであることから、適切に環境を整える必要があります。そのため、令和元年度は、市民体育館のアリーナ床改修や照明改修を行い、施設の環境整備に努めました。
- ・スポーツ・レクリエーションについては、学校開放事業など幅広い年齢層に対応する活動機会を提供したほか、軽スポーツの普及促進事業、各種スポーツ教室の実施、体育協会をはじめとする活動団体の支援を引き続き実施するなど、地域や関係団体との連携によるスポーツ活動団体の活性化に努めました。
- ・体育施設管理団体と連携して、利用者アンケート等により市民ニーズを的確に把握し、体育施設の利便性向上や利用促進に取り組みました。
- ・社会体育施設の今後の在り方については、社会体育施設の整備に関する具体的な方針の策定に向けて、検討を行いました。
- ・2020年オリンピック・パラリンピック東京大会開催に関連する取組や、ラグビーワールドカップ2019日本大会における公認チームキャンプ地となったことを契機に、スポーツ合宿誘致や障がい者スポーツ体験イベント等の開催支援などを行い、アスリートとの交流や実技体験などの機会を通して、市内のスポーツ振興に取り組みました。

政策の成果指標	単位	(初期値)	H29年度	H30年度	R元年度	目標
生涯学習を通じて心の豊かさを実感している市民割合	%	33.2	28.1	29.4	29.5	↗
文化・芸術活動に参加している市民割合	%	-	23.5	23.2	26.7	↗
週1回以上スポーツ活動に親しむ市民割合	%	40.2	39.8	40.6	49.2	↗

教育部が所管する個別計画または重点事業の進捗状況

「社会教育総合計画」 生涯学習の機会が充実していると思う市民割合	%	72.0	63.1	60.4	69.9	↗
「社会教育総合計画」 文化財や歴史遺産の活用により、個性豊かな文化が育っていると思う市民割合	%	45.1	36.3	34.9	38.9	↗
「スポーツ推進計画」 スポーツ機会が充足していると思う市民割合	%	76.5	66.3	62.6	70.4	↗

2. えべつ未来戦略(教育部関係分)

戦 略	■戦略プロジェクト 「関連事業」(担当課)
戦 略 1 にぎわいと活力を創出するまちづくり	
戦 略 2 安心して子どもを産み育てることができる まちづくり	②教育内容の充実 「小中学校学習サポート事業」(学校教育課) 「小中学校外国語教育支援事業」(学校教育課) 「スクールソーシャルワーカー事業」(教育支援課) 「医療的ケア児支援事業」(教育支援課)
戦 略 3 子どもから大人までいきいきと 健康に暮らせるまちづくり	

3. 教育部の資源

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
歳出決算額 (千円)	一般会計 (A)	5,248,470	4,332,647	2,451,252	2,267,882	2,280,931
	特別会計 (B)	0	0	0	0	0
	合計 (A+B)	5,248,470	4,332,647	2,451,252	2,267,882	2,280,931
正職員人件費 (千円)	人工 (a)	103.00	99.00	98.00	101.00	98.00
	平均単価 (b)	7,764	7,670	7,618	7,627	7,687
	人件費 (a×b)	799,692	759,330	746,564	770,327	753,326
総 額		6,048,162	5,091,977	3,197,816	3,038,209	3,034,257

